

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																
専門学校東京アナウンス学院		昭和59年4月2日	船場 吉行		〒 164-0013 (住所) 東京都中野区弥生町1-38-3 (電話) 03-3375-4141																
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																
学校法人東放学園		昭和54年4月1日	斉藤 晃		〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3323-8531																
分野	認定課程名	認定学科名	専任士認定年度	高度専任士認定年度	職業実践専門課程認定年度																
文化・教養	文化教養専門課程	アナウンス科	平成24(2012)年度	-	-																
学科の目的	「アナウンスカ」「フリートークカ」「リポートカ」「インタビューカ」「司会進行カ」「表現カ」をバランス良く養い、テレビ・ラジオ・イベントなど様々なメディアで活躍する、話して伝えるスペシャリストを育成する																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	<ul style="list-style-type: none"> ●上記6つの方を養い、しゃべり手としての土台をつくる ●就職・デビューどちらにも対応できる進路支援体制をもっている ●クラスアドバイザーが直接授業を持つことで一人一人の個性やスキルを把握し、その学生に合った個別の支援をする ●プロダクションに対して直接自身を売り込むことができるアナウンス発表会は貴重な進路支援イベントとなっている 																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技													
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,700 単位時間	210 単位時間	0 単位時間	1,500 単位時間	0 単位時間	0 単位時間												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率																
62人	18人	2人		0%	12%																
就職等の状況	■卒業生数(C)		14人																		
	■就職希望者数(D)		7人																		
	■就職者数(E)		4人																		
	■地元就職者数(F)		3人																		
	■就職率(E/D)		57%																		
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		75%																		
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		29%																		
	■進学者数		0人																		
	■その他																				
	・デビュー:7人・その他:3人																				
(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)																					
■主な就職先、業界等																					
(令和6年度卒業生)																					
株式会社キーワード、(有)エリオフィス、(株)TCP、(株)アールズフローコーポレーション、(有)タイムリーオフィス、タイタン、公益財団法人日本道路交通情報センター、(株)アール・エス・シー、(株)ボトムック、アシストキャリアリンク(株)																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無																		
当該学科のホームページURL	https://www.tohogakuen.ac.jp/announce/broadcast/																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)																				
	<table border="1"> <tr> <td>総授業時数</td> <td>1,700 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td> <td>150 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td> <td>0 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち必修授業時数</td> <td>1,170 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td> <td>120 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td> <td>0 単位時間</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td> <td>0 単位時間</td> </tr> </table>		総授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	150 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,170 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間					
総授業時数	1,700 単位時間																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	150 単位時間																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																				
うち必修授業時数	1,170 単位時間																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																				
	(B:単位数による算定)																				
	<table border="1"> <tr> <td>総単位数</td> <td>0 単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の単位数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>うち必修単位数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td> <td>単位</td> </tr> </table>		総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位					
総単位数	0 単位																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																				
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																				
うち必修単位数	単位																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人																
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		5人																
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人																
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人																
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人																
	計				5人																
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				0人																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や意欲の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、副校長、教務教育部長の他、就職指導や就職先企業の交渉等を主な業務とする学務管理部業務主任や学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。

学外委員からは当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令7年8月23日現在

名前	所属	任期	種別
水城 大裕	一般社団法人日本芸能マネージメント事業者協会 理事	令和5年9月1日～令和8年3月31日	①
渡邊 哲夫	有限会社ボイスワークス 代表取締役	令和6年9月1日～令和8年3月31日	③
船場 吉行	専門学校東京アナウンス学院 校長	—	—
川田 泰弘	専門学校東京アナウンス学院 教務教育部 部長	—	—
大橋 真由美	専門学校東京アナウンス学院 学務管理部 部長	—	—
下田 孝祐	専門学校東京アナウンス学院 アナウンス科 学科主任	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月27日 14:00～16:00

第2回 令和7年3月12日 11:00～12:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会で交わされた意見や改善提案などは次期カリキュラム検討において熟慮し、実行する内容は可能な限り早期に取り組む。

●アナウンス科のカリキュラムには必要な要素がほぼ網羅されているが、更なる充実を図れないか。→目の不自由な方向への音声ガイドやeスポーツの実況者などにニーズがあるので、次年度以降授業に取り入れられないか検討する。

●第一回検討会で交わされた意見をもとに「ヴォイスドラマ(進路の幅を広げる)」「落語(しゃべりの面白さを知る)」「ステージパフォーマンス実習(発表の場を提供)」を2024前期から取り入れ開講した。

●ラジオなど人手が不足している現場ではパーソナリティにワンオペレーションを求められる。これにどのように対応するか。→「取材・インタビュー実習」の授業で構成や台本作成について次期から触れられるよう準備する。更に、撮影・編集・ミキシングなどについても基本的な技術をレクチャーできないか検討する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

テレビ・ラジオ・イベントなど様々なメディアで活躍する、話して伝えるスペシャリストを育成するため、次のポイントを踏まえて企業等と連携を図る。

①アナウンス・芸能業界に広く通じていて現場で必要とされる力やトレンド、課題に意識を持ち、カリキュラムを編成するにあたり有用なアドバイスを得られる企業を選定すること ②企業・業界団体から随時適切な助言を得て実習授業に反映し、学生に還元すること ③企業等との連携により生まれる人脈から新たな講師を迎えたり、学生の現場体験の機会創出、進路先開拓を積極的に行うこと

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

番組やイベント等でのアナウンスやリポートに必要な技術や意識を学ぶべく、アナウンサー等の育成・マネジメント、アナウンス業務全般を請け負う企業による授業を行う。授業は初回から集団・個人での発声を伴う実習授業となる。企業の強みを活かしたイベントや番組など様々なシーンで実際に使われた原稿を用いてレッスンを進める。その際、放送用のカメラで撮影しながらリポートをするなど実践的な方法を採用。期末には実技テストを行い、日々授業で吸収したことをアウトプットし、成果を俯瞰する。

学修成果については期末に実技試験を行い、企業の目線から到達度・成長度・取り組み姿勢・参加状況などを総合的に勘案し、評価付けをしている。また、本番発表などのステージがある授業はその成果を個別に、そしてチームとしても評価し、成績付けの根拠としている。上記の他、3月には学校全体の講師会を開催。当年度の振り返りと次年度授業に向けて情報共有・方針発表・授業依頼・懇親の場を設けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
アナウンサー・リポーターⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	基礎である発声・発音・滑舌・アクセントをしっかり身につけ、各自の声を引き出すとともに、プロの声に磨いていく。	株式会社シー・フォルダ
アナウンサー・リポーターⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	腹式呼吸や明瞭な話し方を習得し、原稿読みだけでなく、自分で取材しリポートできる原稿の構成力も身につける。	株式会社シー・フォルダ
スポーツ実況・リポートⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	スポーツの実況・リポート・インタビューとはどのようなものか、基礎を理解し、目的に合わせて練習の工夫が出来るようになる。□	有限会社ボイスワークス
スポーツ実況・リポートⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	野球・サッカー・バスケットボールなどのスポーツ映像を使用して実況やリポート、インタビューの実習を行い、しゃべり手の視点を体感していく。	有限会社ボイスワークス
フリーアナウンサー実習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	自己PR・オーディション・司会・ブライダルMC・リポート・インタビューなど様々な現場を想定した実践形式の授業を行う。	株式会社ジョイスタッフ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等の連携した研修を行うことを基本方針としている。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: ライブ・エンターテイメントEXPO2024	連携企業等: RX Japan株式会社
期間: 2024年7月3日～5日 10:00～17:00	対象: アナウンス科専任教員／教職員
内容 ●最新の演出機材やグッズ、チケットサービスなど、ライブやフェス、演劇などに関わる製品が出展され、現在の業界動向を知ることが出来る。●業界企業との人脈作りや新規機材導入の検討機会ともなる。	
研修名: 著作権セミナー	連携企業等: 公益社団法人著作権情報センター
期間: 2024年10月22日 13:00～14:30	対象: アナウンス科専任教員
内容 ●著作権制度の概要 ●著作物の判断 ●AI生成物を利用する際の注意点 ●フリー素材について ●契約の重要性 ●権利を管理している団体 ●声の未来	
研修名: Inter BEE 2024	連携企業等: 一般社団法人電子情報技術産業協会
期間: 2024年11月13日～15日 10:00～17:00	対象: アナウンス科専任教員／教職員
内容 60回を迎える日本随一の音と映像と通信のプロフェッショナル展。コンテンツビジネスに関わる最新のインベーションが国内外から一堂に会する国際展示会。卒業生や業界企業との人脈作りや機器備品導入において重要な機会。	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 障害者差別解消法セミナー(合理的配慮について)	連携企業等: 公益社団法人日本ケアフィット共育機構
期間: 2024年9月17日 10:00～11:30	対象: 東放学園教職員
内容 ●障害の捉え方(個人モデルと社会モデル) ●現在に至るまでの法制 ●社会的障壁とは ●事例発表・ディスカッション ●合理的配慮提供における考え方7つの要素 ●同法の目的を実現するには	
研修名: 人権教育研修～学校における合理的配慮～	連携企業等: 公益社団法人東京都私学財団
期間: 2024年12月23日 14:00～16:30	対象: アナウンス科専任教員／教職員
内容 ●私学のおかれた状況(公立と比較した遅れ、学校・教師と社会・保護者間のギャップ) ●合理的配慮とは(法制変遷、合理的配慮の定義、校内のシステムマネジメント) ●多様性への対応(一斉授業からの脱却)	
研修名: 発達障害学生を対象としたカウンセリングの実践～事例から学ぶ対応～	連携企業等: 公益財団法人東京都専修学校各種学校協会
期間: 2025年1月30日 14:00～15:30	対象: アナウンス科専任教員／教職員
内容 ●発達障害 ●ASD ●ADHD ●LD ●発達障害の疑いのある学生への対応 ●合理的配慮 ●発達障害と精神疾患 ●総括	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	ライブ・エンターテイメントEXPO	連携企業等: RX Japan株式会社
期間:	2026年1月頃	対象: アナウンス科専任教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● イベントやライブなどエンターテインメントの最新を体感し知見を深める。 ● 業界関連企業との人脈作りにも活用する。 	
研修名:	Inter BEE	連携企業等: 一般社団法人電子情報技術産業協会
期間:	2025年11月頃	対象: アナウンス科専任教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎年開催される国際放送機器展。最新放送設備の情報収集や業界企業との人脈作りにも活用する。 ● 展示会の中でアナウンス・エンタメ関係のカンファレンスがあれば聴講する。 	
研修名:	バリアフリー音声ガイドセミナー	連携企業等: 株式会社音声ガイドット
期間:	2025年11月頃	対象: アナウンス科専任教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 視覚障害者向け音声ガイドの制作に関する知識を深める。 ● 次年度の授業化に向け、講師手配や授業内容にアドバイスをもらうべく企業との人脈作りに活用する。 	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	金融トラブル防止セミナー	連携企業等: 東京都産業労働局金融部及び日本貸金協会主催
期間:	2025年5月13日 14:00～15:30	対象: 学生及びアナウンス科専任教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 成年年齢引き下げにおける留意点 ● キャッシュレス・ローンやクレジットの仕組み ● 金融トラブル事例(マルチ商法、高収入アルバイトの落とし穴、個人間融資トラブル等) ● 家計管理 	
研修名:	令和7年度コーチング研修	連携企業等: 公益財団法人東京都私学財団
期間:	2026年1月頃(2024年度実績より)	対象: アナウンス科専任教員／教職員
内容	生徒への育成・指導を学ぶ若手教員を対象とした一般教職員向けコースに加えて、部下等に対する育成・指導の具体的な方策についても学ぶ、指導・育成コースがある。研修はZoomを使用したリアルタイムオンライン双方向型で行う。	
研修名:	令和7年度 就職等進路に関するセミナー	連携企業等: 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会
期間:	2026年1月頃(2024年度実績より)	対象: アナウンス科専任教員／教職員
内容	I【雇用環境のリアル】ここまで開く新卒と中途採用 II【学生就活】現場で感じる3津の課題 III【2025業界動向】 ※Zoomを利用したオンライン形式で実施 (2024年度実績より)	

--	--	--	--

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp/about/valuation/>

公表時期: 令和7年2月28日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
(2)各学科等の教育	募集学科、募集定員、出願資格、学科紹介、学びのポイント、おもなカリキュラム、資格取得
(3)教職員	学園概要(校長名、教員数)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職・デビュー支援
(5)様々な教育活動・教育環境	機材・設備
(6)学生の生活支援	学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン
(8)学校の財務	情報公開(財務情報)
(9)学校評価	情報公開(自己評価報告書、学校関係者評価報告書)
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.tohogakuen.ac.jp/about/philosophy/>

公表時期: 令和7年3月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ラジオパーソナリティーⅠ	ラジオならではの話し方を、レポートやフリートーク、ソロトーク、トークバトルなどを体験し実践的に身につける。	1・前	30	1			○	○			○	
2	○			ラジオパーソナリティーⅡ	目の前の様子を伝え、音や香り、肌への触感など、五感に受けるものを言葉にすることで、表現力を高める。	1・後	30	1			○	○			○	
3	○			アナウンサー・リポーターⅠ	基礎である発声・発音・滑舌・アクセントをしっかりと身につけ、各自の声を引き出すとともに、プロの声に磨いていく。	1・前	30	1			○	○			○	○
4	○			アナウンサー・リポーターⅡ	腹式呼吸や明瞭な話し方を習得し、原稿読みだけでなく、自分で取材しレポートできる原稿の構成力も身につける。	1・後	30	1			○	○			○	○
5	○			ナレーションⅠ	ナレーターとして求められるスキルや声、専門知識を学び、文章を読むために必要な発声、技術、滑舌の訓練をする。	1・前	30	1			○	○			○	
6	○			ナレーションⅡ	CMや番組予告などを使った実習をとおしてナレーターに必要な表現力を身に付ける。	1・後	30	1			○	○			○	
7	○			イベントMCⅠ	式典や音楽ライブ、スポーツ会場などさまざまなパターンのイベント進行台本をもとに、実践に近い形でMCを体験する。	1・後	30	1			○	○			○	
8	○			番組制作	テレビ番組の企画、台本制作、撮影などを行い、しゃべりの仕事をするうえで必要なスタッフワークを知る。	1・前	30	1			○	○		○		
9	○			フリートークⅠ	ラジオにおけるフリートークの必要性を理解し、身近なネタから時事、政治などをテーマに実践を繰り返し学ぶ。	1・後	30	1			○	○			○	
10			○	センスアップ	表情から歩き方、座り方、写真の写り方、着物の着付け、食事のマナーなど好感を得るセンスを磨く。	1・前	30	1			○	○			○	
11	○			スポーツ実況・レポートⅠ	スポーツの実況・レポート・インタビューとはどのようなものか、基礎を理解し、目的に合わせて練習の工夫が出来るようになる。	1・後	30	1			○	○			○	○
12			○	落語	座ったまま、道具も使わずひとり何役も演じる落語のテクニックを身につけることで、人前で話して伝える力を養う。	1・前	30	1			○	○			○	

13		○	ステージパフォーマンス演習a	各半期ごとに“ステージイベント”を実施。決められた時間内で、それぞれが歌やヴォイスドラマなどをステージで発表する。	1・前	30	1				○	○	○				
14		○	ステージパフォーマンス演習b	各半期ごとに“ステージイベント”を実施。決められた時間内で、それぞれが歌やヴォイスドラマなどをステージで発表する。	1・後	30	1				○	○	○				
15	○		アナウンス基礎Ⅰ	呼吸法や発声、発音、滑舌、アクセントなどの基礎訓練を行い、簡単な原稿読みやフリートークをレベルアップを図る。	1・前	60	2				○	○					○
16	○		アナウンス基礎Ⅱ	原稿（ニュース・天気予報・お知らせ等）を読む機会を増やし、読みグセを取り除いて感情表現のノウハウを学ぶ。	1・後	60	2				○	○					○
17	○		放送業界講座Ⅰ	アナウンサー、ナレーター、ラジオDJ など現場の方を招き、現場のリアルな話を聞くことで放送業界の知識を深める。	1・通	60	4	○				○		○			
18	○		就職・オーディション講座Ⅰ	プロフィール写真の撮影方法、プロフィール用紙の書き方、オーディションの受け方などを学ぶ。	1・後	30	2	○				○		○			
19	○		発声発音Ⅰ	ストレッチや筋力トレーニングなどの身体作りから、腹式呼吸を使った発声方法、滑舌、アクセントなどを身につける。	1・前	30	1				○	○					○
20	○		発声発音Ⅱ	五十音の単音や文章の発声を繰り返すことで、アナウンサーとして大切な、わかりやすく響きのある声を鍛える。	1・後	30	1				○	○					○
21	○		感情解放	演技の台本を使って、喜怒哀楽の感情が表に出せるように訓練し、自分らしさを理解するとともに、表現の幅を広げる。	1・前	30	1				○	○					○
22		○	パーソナルカラーコーディネート	色彩とパーソナルカラー理論を習得し、パーソナルカラーを生かしてTPOに合わせたセルフプロデュースをしていく力を養う。	1・後	30	1				○	○					○
23		○	ヴォイスドラマⅠ	発声・滑舌の基礎力を磨き、声と言葉だけの自然な躍動感のある生き生きとした表現を身につけ、ヴォイスドラマの収録を行う。	1・後	30	1				○	○					○
24	○		芸術鑑賞Ⅰ	専門分野の知識・見識を高めるために、演劇、スタジアム、ライブなどプロのパフォーマンスを鑑賞する。	1・通	30	1				○		○	○			
25	○		アナウンス発表Ⅰ	プロのアナウンサー、ナレーター や、プロダクション関係者の前でステージに立ち、自己PR と自由発表を行う。	1・通	30	1				○	○					○
26		○	イベントスタッフゼミ	各種イベントを通して他セクションの仕事内容を理解し、スタッフ間のコミュニケーション能力を上げる。	1・通	30	1				○	○		○			

27	○		取材・インタビュー実習Ⅰ	リポーターとして最も重要な取材力を磨き、生放送の現場で対応できるよう技術力や判断力を養う。	2・前	30	1				○	○					○	
28		○	取材・インタビュー実習Ⅱ	基礎力をブラッシュアップしながら、リポーターとしての必要とされる原稿作成の技術を身に付ける。	2・後	30	1				○	○					○	
29	○		フリーアナウンサー実習	自己PR・オーディション・司会・ブライダルMC・レポート・インタビューなど様々な現場を想定した実践形式の授業を行う。	2・前	30	1				○	○					○	○
30	○		ラジオパーソナリティーⅢ	ラジオパーソナリティーに必要なラジオの基本、時間の読み方、曲の選び方、インタビューする相手との接し方を学ぶ。	2・前	30	1				○	○					○	
31	○		ラジオパーソナリティーⅣ	ニュースや新聞などの情報を深掘りできるようなトーク力や、状況やタイミングに合わせた音楽の使い方を学ぶ。	2・後	30	1				○	○					○	
32	○		ナレーションⅢ	発声・技術・滑舌を、バラエティ番組や報道番組など映像を使ったナレーションの実習をとおして身につける。	2・前	30	1				○	○					○	
33		○	ナレーションⅣ	毎回新しい原稿を配布し初見で読むことを実践。事務所所属を目指す方に対するのサンプル指導も取り入れる。	2・後	30	1				○	○					○	
34	○		イベントMCⅡ	様々なパターンのイベント進行台本をもとに、実践に近い形でMCを体験。声色、声のボリューム、言葉遣い、立ち方、必要とする知識など、MCに必要な事を学ぶ。	2・前	30	1				○	○					○	
35	○		読み語りⅠ	小説や童話、コラムなど幅広いジャンルの作品を理解し、ただ読むのではなく、人に伝える・伝わる読み方を習得する。	2・前	30	1				○	○					○	
36	○		読み語りⅡ	各自が作品を選び、その作品をとおして聴く人に伝えたい思いがうまく伝わるように読むことを訓練し、発表する。	2・後	30	1				○	○					○	
37	○		ヴォイスサンプル制作Ⅰ	マイクをとおした自分の声や特長、キャラクターを理解し、オーディションで合格できるヴォイスサンプルを制作する。	2・前	30	1				○	○					○	
38	○		卒業制作	映像作品やラジオの企画から台本制作、撮影、編集までの制作を行うことで、キャストだけでなくスタッフワークも身につける。	2・通	60	2				○	○					○	
39	○		フリートークⅡ	テレビのバラエティ番組、イベントやライブのMCなど、場を盛り上げるフリートークのテクニックを身につける。	2・前	30	1				○	○					○	
40		○	ヴォイスサンプル制作Ⅱ	前期授業を踏まえ、プロダクション所属後も使用できるヴォイスサンプルを制作する。	2・後	30	1				○	○					○	
41		○	スポーツ実況・レポートⅡ	野球・サッカー・バスケットボールなどのスポーツ映像を使用して実況やレポート、インタビューの実習を行い、しゃべり手の視点を体感していく。	2・前	30	1				○	○					○	○

42		○	ヨガ・体幹トレーニング	ヨガの歴史や哲学を学び、さまざまな呼吸法を実践し、柔軟性、筋力、バランスを整えるとともに集中力や忍耐力を養う。	2・前	30	1				○	○			○
43		○	ステージパフォーマンス演習c	各半期ごとに“ステージイベント”を実施。決められた時間内で、それぞれが歌やヴォイスドラマなどをステージで発表する。	2・前	30	1				○	○			○
44		○	ステージパフォーマンス演習d	各半期ごとに“ステージイベント”を実施。決められた時間内で、それぞれが歌やヴォイスドラマなどをステージで発表する。	2・後	30	1				○	○			○
45	○		アナウンス応用Ⅰ	イベントMC、インタビュー、フリートーク、レポートなど、シチュエーションを想定したアナウンスの実習を行う。	2・前	30	1				○	○			○
46	○		アナウンス応用Ⅱ	ウェディングMCを中心に、ニュースや交通情報、フリートークなどプロの現場を想定した実習でアナウンス力を磨く。	2・後	30	1				○	○			○
47	○		放送業界講座Ⅱ	アナウンサー、ナレーター、ラジオDJ など現場の方を招き、現場のリアルな話を聞くことで放送業界の知識を深める。	2・通	30	2	○				○			○
48	○		就職・オーディション講座Ⅱ	就職対策として履歴書の書き方や面接の受け方、電話の受け方、ビジネスメールの書き方などを学ぶ。	2・前	30	2	○				○			○
49		○	ヴォイスドラマ	朗読やナレーションを題材に声の表現力を養うとともに、マイクワークなどスタジオ収録で必要な知識と技術を学ぶ。	2・前	30	1				○	○			○
50		○	ビジネスマナー	社会・組織の一員として必要な基本的なビジネスマナーを習得し、社会人として求められる姿勢・資質・能力を身につける。	2・後	30	2	○				○			○
51	○		芸術鑑賞Ⅱ	専門分野の知識・見識を高めるために、演劇、スタジアム、ライブなどプロのパフォーマンスを鑑賞する。	2・通	30	1				○			○	○
52		○	アナウンス発表Ⅱ	プロのアナウンサー、ナレーター や、プロダクション関係者の前でステージに立ち、自己PR と自由発表を行う。	2・通	30	1				○	○			○
53		○	フォローアップゼミ	就職・オーディション講座で培ってきた書類作成などを活かし、進路決定に向け活動する。	2・後	30	2	○				○			○
合計					53 科目			1710 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①期日までの学費納入 ②必修科目を含む年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定	1学年の学期区分	2期
履修方法：	シラバスや初回授業(ガイダンス)で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。